



基本
理念

高度で良質な医療を提供し、病む人々が安心し、信頼できる病院をめざします

卒業生の記念植樹

新年度が始まりました。4月2日からは新しい新人達が加わり、さっそくオリエンテーションに精を出しています。4月6日には附属看護学校の第72回生新入生を迎え、キャンパスに一気に明るい雰囲気が増しました。

その新入生の3年先輩にあたる69回生が1か月程前に巣立って行きましたが、卒業記念に2本のソメイヨシノの苗木を敷地内に植えてくれました。その細い苗木は、新燃岳の降灰がひどくなったら枯れてしまうのではないかとハラハラしましたが、都城の地に早くも根づいてくれたようです。このソメイヨシノが花を咲かせるのは1~2年先だと思っていたのに、1か月もたたない3月下旬、小さな初々しい花を恥ずかしげに咲かしていました。「都城医療センターの皆さん、これからよろしく！」とでも主張しているのでしょうか、驚きました。新入達に対しても精いっぱいの歓迎を示しているんだろう、私にはそのよう思えてなりませんでした。

ところで、病院・学校敷地の一角に私の院長宿舎があります。平屋の一軒家ですが、庭が申し訳なくくらい広いです。毎年の草取りが大変と、某名譽院長がやむなく庭の一部を砂利で埋めてしましましたが、まだ充分広い。その庭の一角に大きな梅の木が悠々と茂っています。結構な大きさの木なので、台風の直撃で枝が折れたりすると、わが宿舎は簡単に押しつぶされてしまいそうです。その危険回避のために大きな枝を何本もバッサリ切り落としてもらいました。切り口を見ると、数えきれない年輪が刻まれています。これこそ明治42年、前身の衛戌病院設立時に植えられた小さな苗木が107年の風雪に耐え、たくましく育った歴史の証なんだと思いました。今回の卒業記念のソメイヨシノの苗木も都城医療センターの大地に早く根を張り、この梅の木のように永く空にそびえ続け、毎年、美しい桜の花を咲かせてもらいたい。入院患者の皆さんもそれを楽しみにして「自宅に帰るぞ！」と勇気付ける名物桜になって欲しいと心から願いたいものです。

皆様へのご挨拶が遅れましたが、常日頃より当院の診療、研修、教育、研究活動に多大なるご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

当院では平成20年に始まった旧施設の全面新築整備が平成28年夏に終了し、現在、新しい剖検室を含めて全面稼働しています。かつて必ずしも十分でなかった外来・入院診療環境、各種医療機能のインフラは整備され、「箱モノ」は出来上がりました。それに恥じない「魂」を注ぎ込み、そして「この病院に来てよかった、と皆さんに愛される病院」作りに日夜、努めているところです。

しかし、医療界では2025年問題を前にして「医療から介護へ」、「病院から地域へ」と医療・介護一体化、地域包括ケア構築がカウントダウン段階になっています。その激動ぶりは、我々医療人にとってまさしく葛飾北斎作の「波濤」そのもので、かじ取りを誤れば轟沈のおそれ大であります。宮崎県の地域医療構想では都城医療センターが属する都城北諸県郡医療圏でも高齢少子化による医療・介護の需要の大きな変化に応じて、2025年に高度急性期・急性期医療の必要病床数は激減し、在宅にむけての様々な多職種共同で効率の高い精緻な回復期医療の需要が増加することが確実に想定されています。在宅医療・介護必要量も大きく膨らみます。

このように予想される医療・介護の需要激変に対し、現在、地域医療構想停会議で、地域内で一層の病床機能の分化・連携、役割分担の議論が進んでいます。当院も積極的に議論に参加していますが、我々に求められる役割は何か、真摯に検討しています。今後、以下のように考えてゆこうと思っています。

1. 包括的がん診療・高度周産期医療を中心として、従来の高度急性期・急性期医療の維持・発展を目指す。

① 地域がん診療連携病院の立場から5大がん(肺がん、胃がん、大腸がん、乳がん、肝臓がん)、血液がん、婦人科がん、泌尿器がん、頭頸部・口腔がんなどの様々ながんに対し、手術療法、化学療法、放射線療法はじめ緩和ケア、生活支援(在宅復帰を含む)、がん登録作業など多彩な包括的がん診療のための支援を進め、引き続き、県西部地域におけるがん診療の中心的施設としての役割を果たしてまいります。

② 地域周産期第二次中核病院、地域周産期母子医療センターであることか

らNICU6床、GCU12床を有し、母体搬送から新生児集中治療にいたるまで、県西地区、小林・えびの地区および大隅地区の高度周産期医療の砦として、引き続き、責任を果たしてまいります。宮崎県では産科一次医療施設と二次医療施設間で胎児心拍陣痛図(CTG)のネットワークシステムが都城市中心に整備され、その後、順次、県中部、県北部へと広がり、まもなく県南部の整備をもって全県の高度周産期医療の受け入れ態勢が整備される予定です。都城地区はその先駆けをなした地域であり、「安心して子供を産める、育てることができる」町として一層、高い評価をいただけるよう努力いたします。

2. 地域で求められる回復期医療を導入する。

地域で不足する回復期医療に貢献するため、一部の病棟を地域包括ケア病棟(当院では在宅サポート病棟と命名しました)として開設いたしました。これまでの急性期医療の経験・人財を生かし、急性期治療にて病状が安定したら、できるだけ早い時期から質の高い回復期治療(post acute 高機能回復期リハ医療)を開始することによって、一日も早い在宅復帰を支援したいと考えます。この回復期医療を併設することによって自施設および他施設の急性期医療から回復期医療への移動を促進し、急性期医療患者の需要にも一層迅速に対応できるようにしたいと考えています。運用が軌道に乗りましたら、院外からのsubacute(回復期医療必要患者)もお引き受けできるように準備を進めてまいります。

以上のように、今後当院は、総合包括がん診療・高度周産期医療を中心に従来行ってきた急性期医療を引き続き、実践することに加え、高機能回復期医療を一部導入することで急性期医療と高機能回復期医療の複合機能施設として地域に尽くしてまいります。

4月には診療部門に新しい力も加わりました。内科部門に代謝・内分泌・糖尿病専門医が加わり、多職種のチーム医療体制で生活習慣病領域の診療を目指して行きたいと思います。準備ができましたらお知らせいたします。整形外科、泌尿器科で医師増員され、パワーアップされます。これもご期待ください。もちろん地域医療支援病院、救急告示病院、開放型病院としてもかかりつけ医の皆様との協働診療も従来どおり行ってまいります。地域の医療従事者の生涯研修支援もさらに充実させてまいります。がん診療拠点病院研修会、感染管理研修会、医療安全研修会、病診連携のタペ、歯科・医科病診連携のタペ、緩和ケア研修、臨床倫理研修など様々な研修会を行っています。お気軽にご参加ください。小学生・中学生のための医療体験ツアー(メディカルキッズ)も引き続き行ってまいります。大変な人気をいただいています。地域医療を担う看護師養成も引き続き行なってまいります。当院附属看護学校は5年連続で100%合格を果しました。当院を希望される初期研修医も増えてきて、今年は熊本大学研修医も加わり、総勢40名を超える初期研修医が都城を訪れます。このような活動を通じて、我々の仲間を増やし、地域に恩をもたらす次世代の医療人育成も使命と考えています。

この激動の地域医療情勢の時期、地域のために何をすべきか、我々が果すべき役目を職員全員とともに前向きで元気に考え、行動し続けるような病院運営を進めてゆきたいと思っています。今後ともよろしくご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

院長 冷牟田 浩司



退任のご挨拶

退職にあたりー在職25年余を振り返ってー

氏名：前副院長 稲所 幸一郎

新緑の季節となり、皆様にはご健勝のことと存じます。

さて私こと、この3月末をもって退職となりました。平成4年に入職してから退職するまでの25年余の間大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

思い起こすと、私は平成4年に整形外科医長として赴任しました。当時の整形外科外来は、車椅子がやっと入る程度の狭く古い診察室が1つで、常勤医師1名非常勤医師1名と人員も少なく患者さんに不便をかけながら診療を行っていました。

そういう状況の中でも、私は専門とするリウマチ診療を都城地区でも活かしたく、整形外科の特殊外来として週1回午後に開始しました。注射金剤やブシラミンなどの免疫調整剤しかない時代での薬物治療と人工関節などのリウマチ関節外科の手術を開始するなどリウマチ診療を進めるうち、予想以上に患者数が多くなり、病院や大学と派遣医師要請などの話し合いを重ね、人員と十分な広さの診療室と診療時間を確保することができ、最終的にはリウマチ科として一般外来を週3回まで増設することとなりました。またリウマチの寛解導入に有効なメトトレキサートや生物学的製剤が開発されるといち早く取り入れるなどリウマチの患者さんの生活の改善に取り組み、都城医療圏でのリウマチの治療の中心として患者に寄り添える医療をおこなうことができました。

長きにわたり整形外科・リウマチ科を支えていただいた多くの方に感謝申し上げます。

また一方で、私は病院の運営に関わるようになり、平成16年に国立病院機構都城病院として組織が独立行政法人に変わった時期に統括診療部長、平成24年には副院長を拝命し、平成20年からの病棟、手術棟、外来棟の建て替え、平成26年の病院機能評価の審査に際しては、地域の先生方のご支援をいただき、職員の協力のもとに無事に完了することができました。お礼申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。そして今後も都城医療センターが地域医療の中心として、地域の方々に安心と信頼の医療を提供する病院として益々発展されることを祈念します。



副院長就任のご挨拶

氏名：吉住 秀之

役職：副院長

着任にあたっての抱負：平成30年4月1日付けで都城医療センター副院長を拝命し、このたび九州医療センターから異動いたしました。前任地では、医療情報管理センター部長として、診療情報の管理の業務を行うとともに、臨床では、代謝内分泌内科医師として主に糖尿病を中心とした生活習慣病を診療していました。新任地に来てからは、第一に院長をサポートして、院内の守りを固めるとともに、病院の全職員が働きやすい環境をつくっていくことが副院長の最大の使命と心得ています。第二には当院は外科系の診療科での手術が多く、糖尿病をかかえた患者も多いことから、周術期の血糖管理や糖尿病の指導等について、側面から支援しつつ、今後糖尿病を中心として生活習慣病の診療を行いたいと考えております。都城地区の患者の皆様のお役に立てるよう鋭意努力して参りますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。





就任のご挨拶



氏名：緒方 健一

役職：外科部長

着任にあたっての抱負：延岡市出身で、以前12年間県立延岡病院で勤務していました。再び宮崎県民となりましたが、今度は県西から宮崎県の医療に貢献できるようがんばりたいと思います。



氏名：柳邊 秀一

役職：小児科医長

着任にあたっての抱負：若輩者ではありますが、少しでも県南の子供達の力になれば良いと思います。よろしくお願ひします。



氏名：日野 祐一

役職：放射線科医長

着任にあたっての抱負：霧島医療センターより転勤してまいりました。

3回目の都城になります。よろしくお願ひいたします。



氏名：森永 剛司

勤務部署：外科

着任にあたっての抱負：今回都城医療センターへ着任しました森永剛司と申します。宮崎県は初めて住む土地なのでいろいろ教えて頂けるとありがたいです。よろしくお願ひします。



氏名：片山 太輔

勤務部署：小児科

着任にあたっての抱負：まだまだ経験不足な点は多々ありますが、患者様に寄り添った医療が出来る様1つ1つ勉強していきたいと思います。よろしくお願ひします。



氏名：高村 一成

勤務部署：小児科

着任にあたっての抱負：新生児領域、一般小児領域を中心に勉強させていただきます。よろしくお願ひします。



氏名：慶田 喜文

勤務部署：泌尿器科

着任にあたっての抱負：都城に1年ぶりにもどってまいりました。よろしくお願ひします。



氏名：川上 一誠

勤務部署：泌尿器科

着任にあたっての抱負：医師としての経験が浅く、ご迷惑をおかけすることがあるかもしれません、一生懸命頑張ります。よろしくお願ひ致します。



氏名：福元 渉

勤務部署：泌尿器科

着任にあたっての抱負：鹿児島大学から来ました福元渉です。

未熟者でわからないことばかりでご迷惑をおかけすると思いますがよろしくお願ひ致します。



氏名：黒木 智文

勤務部署：整形外科

着任にあたっての抱負：生まれ育った都城でこんなに早く医師として働くことになるとは思ってもいませんでした。

都城の方々の健康増進のため微力ながら頑張らせて頂きます。



氏名：河野 猛嗣

勤務部署：産婦人科

着任にあたっての抱負：都城の地域医療、周産期医療を支えるため、一生懸命頑張ります。ご迷惑をおかけすることが多いと思いますが宜しくお願ひ致します。



氏名：北島 久義

勤務部署：薬剤部長

着任にあたっての抱負：南九州病院から異動してきました。私はここ都城医療センターで十施設目となりますが久しぶりの急性期施設です。不慣れな点もあると思いますが、ご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。



氏名：柳田 和憲

勤務部署：事務部長

着任にあたっての抱負：4月1日付でJCHO九州地区事務所から転任となりました事務部長の柳田でございます。都城医療センターの患者さん及び職員のために「一所懸命（いっしょけんめい）」頑張りますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



氏名：山中 真弓

勤務部署：教育主事

着任にあたっての抱負：この度、看護学校に教育主事として着任しました。看護学校には、平成6年から2年間教員としてお世話になりご縁を感じております。どうぞ、よろしくお願ひします。



氏名：松本 恵美子

勤務部署：臨床検査技師長

着任にあたっての抱負：スタッフと共に、患者に繋がる臨床支援、質の高い検査、明るい検査部を目指し、チーム医療に貢献したいと思います。よろしくお願ひします。



氏名：後藤 祥子

勤務部署：副看護部長

着任にあたっての抱負：新たな出会いと再会に感謝しながら、職員の皆様と共に頑張っていきたいと思います。よろしくお願ひ致します。

乳腺専門外来のお知らせ

4月から第4週の金曜日に乳腺専門外来に、熊本大学病院 乳腺・内分泌外科教授の岩瀬弘敬先生が来られます。岩瀬先生は昨年夏まで日本乳癌学会の会長をされており、会長の任期を終えられたために、当院の乳がん外来に来て頂けます。先生は日本の乳がん治療の第一人者であり、乳がんのホルモン治療のリーダーでもあります。14年前熊大教授就任後、当院の乳がん治療の指導を担当して頂いております。特に、難しい症例の検討や行き詰った症例など、月1回の外来ですがいろいろ相談に乗っていただけます。

なお、乳がん検診後の精密検査などは、以前同様また4月から開始しております。

(統括診療部長 後藤 又朗)

薬剤師外来をはじめました ~がんのお薬に関するご説明について~

近年、飲み薬の抗がん剤の増加や、従来よりも短時間で施行できる注射の抗がん剤の開発により、今まで入院で行っていた抗がん剤治療を、外来で行なうことが増えてきています。これまで外来で治療を受けられる患者さんに対し、ご要望に応じてがんのお薬についてご説明を行なってきましたが、この度3月より外来専任の薬剤師を一人配置し、より多くのがんの患者さんを対象にお薬の説明やご相談に応じられるようにいたしました。取り組みとして、診察の前または後に体の症状やお薬の副作用についてお尋ねし、必要に応じて医師・看護師と相談し副作用への対策を行なっていきます。また、当院薬剤部は地域の薬局の薬剤師と定期的に勉強会を開催し顔の見える関係を築き、薬・薬連携というネットワークを介して、患者さんとのご相談に対応しています。まだまだ開設したばかりでご不便をおかけすることもある



薬剤師外来のご案内

当院では、外来でがんの治療を受けられる方へ薬剤師によるお薬の説明を行なっております。ご希望の方は、各診療科の医師・看護師へお知らせください。

都城医療センター薬剤部

かと思いますが、がんのお薬による治療を患者さんが安心して受けることができるよう薬剤師も努めて参りますので、どうぞよろしくお願ひ致します。

(薬剤部 薬務主任 大窪 典子)

人にやさしい福祉のまちづくり功労団体表彰

宮崎県が施策を展開する「人にやさしい福祉のまちづくり」の推進に貢献したことが認められ、平成29年度の施設整備部門の功労団体として当院が唯一表彰されました。

これは平成28年度に完成した当院の外来診療管理棟に関して、身障者駐車場や建物内のエントランスや廊下、エレベーターなどが「高齢者、障がい者の移動時の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）」に基づく整備基準を上回る整備が行われていることや授乳場所の設置等誰もが利用しやすいよう配慮がなされていることなどが、地域における優しい福祉のまちづくりに関する普及・啓発に寄与していると認められたもので、平成29年12月19日、宮崎市の県電ホールにおいて河野県知事より院長が直に表彰状を授与されました。

これを励みとして、今後とも地域の皆さまが安心し、信頼できる、人にやさしい医療を提供することを念頭に快適な療養環境作りを目指して努力して参りたいと思います。

（企画課長 村尾 浩一）



在宅サポート病棟開設のお知らせ



当院では、急性期治療の在宅復帰に向けた医療や支援、リハビリ等を行うため、平成30年3月より4階病棟を、地域包括ケア病棟（通称 在宅サポート病棟）として開設致しました。在宅サポート病棟とは、急性期の治療や検査が終了し病状が安定した後、すぐに自宅や施設等での療養に移行することに不安がある患者さんに対して、しばらくの間入院療養を継続し、在宅復帰に向けての準備を整えるための病棟です。自宅などへの退院準備をしっかりと行い、生活を整えてから、患者さんが安心して在宅に復帰していただけるよう、医師、看護師、リハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカー等多職種で協力して支援を行っています。在宅サポート病棟の入院期間も60日を限度としており、患者さんからは「手術後をゆっくりと静かな環境で過ごすことができ安心して家に帰る準備ができた」「毎日のリハビリで家に帰る自信がついた」などの反応があります。また、ご家族からは「患者・家族に合わせて看護師さんから丁寧に生活面の指導があり、自信を持って介護に臨めそうだ」などの評価をいただいており、在宅サポート病棟の役割の重要性を実感しています。

今後、更なる地域包括ケアシステムの構築、地域医療の充実に向けて、施設や在宅から在宅サポート病棟へ直接入院される患者さんの受け入れ（サブアキュートの機能）も準備を進めていきたいと思います。サブアキュート機能を導入する事で地域の医療機関や介護施設等との関係強化、連携強化を図りたいと考えています。住み慣れた地域で誰もがその人らしい生活ができるよう、地域完結型の医療活動を推進する在宅サポート病棟の役割を発揮できるよう努めて行きたいと思います。

（在宅サポート病棟準備委員会 地域医療連携部副部長 鳥丸 章子）



第69回卒業証書授与式 平成30年3月6日(火)



今日に至るまでの三年間は一瞬のようでもあり、とても長い時間だったようにも思います。入学時、看護師になるという夢に一步近づいたことに喜びを感じる一方で、これから始まる三年間に、漠然とした大きな不安を抱きながら、この地を訪れたことを、今でも覚えています。

初めての病棟実習では、緊張と不安の中、看護師の働く姿に憧れを感じつつ、自分は本当に看護師にむいているの

だろうかと自問することもありました。しかし、緊張しながらのぎこちない私たちの援助にも笑顔で接してくださる患者さんに励まされ、「患者さんに喜んでいただけるような援助ができるようになりたい」と決意を新たにすることことができました。

三年次の実習では、看護師の皆さんや先生方に、何度も指導や助言をいただきながら、教育理念に掲げる最善の看護について考えることができました。多くの患者さんと関わらせていただいたことで、私たちは看護師の役割と責任の重さを感じるとともに、その素晴らしさにも気付くことができました。

私たちは今日、晴れて卒業の日を迎えることとなりましたが、この日を迎えることができたのは、いつも温かく見守ってくださった講師の皆様、病院職員・教職員の皆様、家族の存在があってこそと思います。皆様からいただいたお言葉やこれまでの教え、三年間の学びと思い出を胸にそれぞれの目指す看護師像に向かい、努力を惜しまず精進してまいります。

(卒業生代表 甲斐 葵)

第72回入学式 平成30年4月6日(金)

花々の香りに包まれ、春風が心地よい今日のよき日に、私たち72回生40名は、独立行政法人国立病院機構都城医療センター附属看護学校に入学を許可していただきました。

今、新しい仲間と共に学ぶことへの期待と不安でいっぱいです。

私は小学生の時、自分の通っていた小児科の看護師の方々を見て、看護師という職業に強い憧れを抱きました。そして、看護体験に参加させていただいたことで、治療だけではなく、患者さん一人ひとりと真摯に向き合い、信頼していただける看護師を目指したいと思うようになりました。これから、自分の関わる全ての人々とのつながりを大切にし、感謝や思いやりの気持ちを表現できるよう志高く臨んでいきたいと思います。

この伝統ある学校で学べることに誇りを持ち、仲間と切磋琢磨し合い、看護の知識・技術だけでなく豊かな人間性を培い、患者さんに最善の看護が実践できるよう精いっぱい努力することを誓います。

(新入生代表 川崎 萌)



外来診療科別週間担当医当番表 独立行政法人 国立病院機構 都城医療センター

【全診療科 初診予約制】受付時間 8:30～11:00

【平成30年4月1日】

診療科名等		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内科 **2	初診 血液		前田宏一	休診		
	再診 肝	加藤順也				
		前田宏一	加藤順也	前田宏一 加藤順也	前田宏一 加藤高智徳	前田宏一 加藤順也
循環器内科	阿南隆一郎	阿南隆一郎	阿南隆一郎	阿南隆一郎	阿南隆一郎	阿南隆一郎
呼吸器内科	初診		今津善史	今津善史	今津善史	今津善史
	再診	今津善史				
呼吸器外科	初診		巻幡聰	手術日	巻幡聰	手術日
	再診		巻幡聰 加藤文章		巻幡聰 加藤文章	
小児科	午前 1診	片山太輔	柳邊秀一	高村一成	隅明美	裴孝俊
	1診	柳邊秀一	高村一成	片山太輔	隅明美	柳邊秀一
	午後 2診	内分泌・代謝外来 (第二月曜日)	裴孝俊	裴孝俊	高村一成	片山太輔
	3診			ジナジス外来 (9月～3月)		
外科	初診 緒方健一		手術日	田中洋	手術日	緒方健一
	再診 田中洋			森永剛司	後藤又朗	杉原栄孝
乳腺専門外来						岩瀬弘敬 (第四金曜日)
消化器病センター	初診 藤原利成	駒田直人	藤原利成	駒田直人	駒田直人	
	再診 駒田直人	藤原利成	駒田直人	藤原利成	駒田直人	
NST外来		駒田直人 (第二四火曜日 14:00～16:00)				
整形外科	初診		吉川教恵	吉川教恵	吉川教恵	
	再診	黒木智文	吉川教恵	吉川教恵	吉川教恵	
リウマチ科	吉川教恵 (再診のみ)					
泌尿器科	1診		山崎丈嗣	山崎丈嗣	山崎丈嗣	
	2診	手術日		慶田喜文	川上一誠	慶田喜文
皮膚科 **3		中山文子 (午前)		中山文子 (午前)	中山文子 (午前)	
産婦人科	初診 徳永修一	古田祐一	徳永修一	徳永修一	古田祐一	徳永修一
	再診 古田祐美	徳永修一	古田祐一	古田祐一	古田祐一	徳永修一
耳鼻咽喉科	一般 外山勝浩	外山勝浩	外山勝浩	外山勝浩	外山勝浩	手術日
	難聴外来 津曲省吾 (14:00～17:00)					
放射線科	放射線治療 加治屋芳樹	加治屋芳樹	加治屋芳樹	加治屋芳樹	加治屋芳樹	加治屋芳樹
	画像診断 日野祐一	日野祐一	日野祐一	日野祐一	日野祐一	日野祐一
歯科口腔外科	一般 田畠雅士	田畠雅士	田畠雅士	田畠雅士	田畠雅士	手術日
	新屋俊明	新屋俊明	新屋俊明	新屋俊明	新屋俊明	
	久保舞 有村真一郎	久保舞 有村真一郎				横山幸三 (午後)
ペインクリニック**6						森主宜延 (月1,2回)
障がい者歯科						
がんサポート外来 **4						岩崎竜馬
緩和ケア外来 **4						林章敏 (第四金曜日)
特殊外来	マザークラス (第二土曜日・第四月曜日)	リンパ浮腫外来 フットケア外来	助産師相談室 (午後)	リンパ浮腫外来		ストーマ外来(午後) 母乳外来 遺伝カウンセリング外来 (14:00～15:00)

[その他の特殊診療]

診療科名等		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
内視鏡センター	上部消化管 下部消化管	上部消化管 下部消化管	上部消化管 下部消化管	上部消化管 下部消化管	上部消化管 (午後より宮大)	上部消化管 下部消化管
透視撮影(胃)	外科	外科	外科	外科	外科	外科
骨塙ドック(骨粗鬆症検査)【予約制(14:00以降)】	整形外科	整形外科	整形外科	整形外科	整形外科	整形外科

※1 全診療科初診予約制となりますので、事前に診療FAX連絡票にてご連絡頂きますようお願いします。また各診療科の診察日以外については、急患のみ対応となります。

※2 医療機関の方へ：血液内科の初診については、事前に診療FAX連絡票と共に、最新の血液データを送ってください。

※3 皮膚科の診察時間は、火曜～木曜、金曜の9時30分～13時となっております。

※4 がんサポート外来、緩和ケア外来については、事前に相談支援センターまでご連絡頂きますようお願いします。

※5 セカンドオピニオンの受診についても、予約制となっております。相談支援センターまでご連絡頂きますようお願いします。

※6 ペインクリニックは歯科口腔外科を受診された患者様が対象となります。

【地域医療連携室・がん相談支援センター】フリーダイヤル (0120) 411-329 FAX (0986) 26-1893



独立行政法人
国立病院機構

都城医療センター

(地域がん診療連携拠点病院・
地域周産期母子医療センター)

〒885-0014 宮崎県都城市祝吉町5033番地1

TEL/0986-23-4111(代表) FAX/0986-24-3864

E-mail/syomu-2@hosp.go.jp http://www.nho-miyakon.jp

編集発行：広報委員会